世田谷村日記

石山修武

五月六日

七時前起床。今日も肌寒い日が続いている。八時前河野鉄工世田谷村現場へ入る。少し難しいところがあるので指示。昼過ぎまで職人さんの仕事を見る。現場で赤裸々な材料に触れていると色んなアイデアが生まれるのが嬉しい。十四時前研究室。大室山の計画で伊藤さん来室打合わせ。十五時過修了。住宅のプロジェクトを全て個別に打合わせ。十九時聖徳時現場の打合わせ。二〇時過さぬきうどんの夕食。二十二時半までＭＯと打合わせ。世田谷村Ⅱ期工事に関して。今年のＭＯは聴く耳を持っているので教えていても手応えがある。二十三時半世田谷村に戻る。現場がだいぶん進んでいて、暗い中のぞいてみた。〇時半迄、現場の暗闇の中を徘徊して、心身共に元気を取り戻す。作っている最中、途次の状態というのは設計者にとっては異常な作用をもたらすものだ。南面の開口部のデザインは鉄を痛め抜いて、力強く動きに満ちたものにしてみよう。

五月七日

七時過起床。七時半河野鉄工現場入り。現場で職人さん達の仕事を眺めながら、アレコレと考えたりボーッとしていたりの至福の時間を過す。十七時過デービット、柴原両名打合わせで来村。一階ピロティ部で十勝プロジェクト、森の学校の打合わせ。何はともあれ、大学に居るよりはズーッと気持が良い。鉄材で幾つかの実験的試みをしているのだが、こういう勉強の仕方は久しぶりだ。三〇年位も昔に、鉄まみれになっていた頃の鉄の現場の匂いと、今の現場のにおいは大分異なっているのを実感している。鉄を加工する道具が変わったのか、鉄そのものの素材が変化したのか、両方なんだろう。線材ではない、面材としての鉄、あるいは複雑な線の組み合わせとしての鉄材の可能性はまだまだ未知なものがあると思われる。二十一時調布、聖徳寺床の色合いについて打ち合わせに出掛けた。